

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第108号

令和2年4月14日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

神戸喜楽館・楠公父子講談企画は急遽中止

正行と弁の内侍の恋、宝塚大劇場で上演

＝ 正行顕彰歌劇公演等、続々と ＝

● 講談、楠公父子物語に協力 ●

2月26日(水)、四條畷市役所で、落語家の桂福丸さんとお会いしました。

日本で最も西に位置する上方落語の定席、神戸新開地「喜楽館」では、毎月、1週間の特集企画を公演しているとのこと。

5月25日は、湊川神社に祀られている楠木正成の命日にあたることから、1週間の特集企画/正成・正行父子の講談を企画し、正成・正行にゆかりあるコアな自治体の協力・協賛を求めているので、協力してほしいとのこと。

ちなみに、2月は24日から1週間、「鉄道特集ウイーク」と題して、桂梅団治・桂しん吉さんらによる「日替わり鉄道新作落語」「鉄道写真スライド大喜利」「鉄道資料展示(ロビー)」が公演され、3月は2日から1週間、「ひなまつり女流特集ウイーク」と題して、桂あやめ、露の都、旭堂小南陵さんらによる落語・講談が公演された(新型コロナウイルス感染対策から公演中止もあり)。

落語や講談を通して、正成や正行の顕彰ができるのであれば、ファン層の広がる、願ってもないうれしいお話。一も二もなく協力をお約束し、正行の生涯を描いたチラシ制作・提供や正行像賛扇子、楠正行かるた等の販売でも協賛することとしました。

桂福丸さんは、講談による公演なので、歴史的史実を忠実に伝えるというよりも、聴衆を楽しませる解釈や演出で、伝統話芸として一人でも多くの人々に楽しく、正成、正行を知ってもらおう機会にしたい、とのことでした。

● コロナ対策で、5月喜楽館休館 ●

しかし、4月7日(火)に、政府が発令した緊急事態宣言を受けて、4月8日(水)、桂福丸さんから『神戸新開地・喜楽館が5月末までの休館を決定されたので、演芸で聴く楠公さんの1週間企画公演は中止となりました。また、機

会を改めて必ず開催しますので、その際は何卒よろしくお願ひします。』と、ご連絡をいただきました。

せっかくの正行顕彰の機会になると大いに期待していましたが、時節柄、休館・公演中止もやむを得ないと思います。

以下に、企画された5月の楠公さん1週間企画をご紹介します。後日、実現の折には改めてご案内しますので、楽しみにお待ちください。

中止された「演芸で聴く楠公さん」

5月1週間楠公ウイーク 午後2時開演

延元元年5月25日に湊川の戦で命を落とした楠木正成。子である正行も登場する講談で、様々なエピソードが楽しめる。

★楽しく笑って歴史にも触れられる1週間!★

- ・25日(月)「観心寺で生まれた正成」 旭堂南海
- ・26日(火)「赤坂城で大軍を撃破」 旭堂南海
- ・27日(水)「正成軍大坂で大暴れ」 旭堂南海
- ・28日(木)「青葉茂れる櫻井の別れ」 旭堂南海
- ・29日(金)「正成、湊川最期の戦い」 旭堂南海
- ・30日(土)「正行、四條畷で花と散る」 旭堂南海
- ・31日(日)「〈特別逸話〉楠木の泣き男」 旭堂南麟

◆前売り2,300円/一般当日2,800円 ※全席指定
65歳以上2,300円/障がい者・大・高生2,000円
/小・中学生1,500円 以上すべて要証明書
10名以上:団体割引あり

●神戸新開地・喜楽館

〒652-0811 神戸市兵庫区新開地2丁目4-13

TEL 078-335-7088

<https://kobe-kirakukan.jp/>

正行と弁の内侍の恋「桜嵐記」

湊川神社、秘書課広報室長の鈴木さんからうれしいメールをいただいた。

なんと、今秋、宝塚大劇場で正行と弁の内侍の恋、そして二人の生き方を描いた上演が決まった、とのこと。

現在、分かっている情報は、宝塚歌劇団ホームページによると、以下の通り。

◆宝塚大劇場・月組公演

○主演 珠城りょう、美園さくら

○公演 2020年11月13日(金)～12月14日(月)

一般前売り 2020年10月10日(土)

☆ロマン・トラジック

『桜嵐記(おうらんき)』

作・演出/上田久美子

南北朝の動乱期。京を失い吉野の山中へ逃れた南朝の行く末には滅亡しかないと知りながら、父の遺志を継ぎ、弟・正時、正儀と力を合わせ戦いに明け暮れる日々を送る楠正行(まさつら)。度重なる騒乱で縁者を失い、復讐だけを心の支えとしてきた後村上天皇の侍女・弁の内侍。

生きる希望を持たぬ二人が、桜花咲き乱れる春の吉野でつかの間の恋を得、生きる喜びを知る。

愛する人のため、初めて自らが生きるための戦いへと臨む正行を待つものは・・・。

「太平記」や「吉野拾遺」などに伝承の残る南朝の武将・楠正行の、夢も鮮烈な命の軌跡を、一閃の光のような弁の内侍との恋とともに描く。

☆スーパー・ファンタジー

『Dream Chaser』

作・演出/中村暁

“Dream Chaser”とは夢を追い求める人。夢を追うひたむきな情熱をテーマに、場面ごとに異なった世界観の音楽とダンスで、月組生達の多彩な魅力を届ける。

●宝塚大劇場

〒665-8558 宝塚市栄町1-1-57

TEL 0570-00-5100 (インフォメーションセンター)

■美園さくらさん宝塚退団へ

宝塚歌劇団は23日、月組トップ娘役、美園さくらさん—写真—が2021年2月14日に退団すると発表した。美園さんは東京都出身。13年に初舞台を踏み、18年にトップ娘役に就任した。東京宝塚劇場で開かれる「桜嵐記」「Dream Chaser」が最後の舞台となる。



↑ 毎日新聞3月24日朝刊

スーパーオペラに正儀、正勝登場

歌劇 紅天女

会員の西村さんから、「正行さんは登場せず少し残念でしたが、よければご覧ください。正儀さんはなかなかカッコよかったですよ。」と、スーパーオペラ・ガラスの仮面より、歌劇「紅天女」(くれないてんにょ)のパンフレット(コピー)が送られてきた。

原作・脚本・監修を担当した美内すずえは、長年描き続けてきた漫画『ガラスの仮面』の作中劇『紅天女』は、漫画上ではわざと抜いた場面だが、多くの縁に導かれ、オペラとして舞台上上がった、と寄せている。

オペラ研究家、岸純信は、作品解説の中で、「オペラと史実」と題し、《紅天女》の背景には、14世紀の中期に50年以上も続いた戦乱の世、南北朝時代の史実が存在すると記し、登場人物、正儀、正勝が、以下の通り紹介されている。

○楠正儀

南朝方の有名な武将、楠木正成の三男。和睦に対する熱意が強く、戦闘を望む長慶天皇と反目し、一時的に北朝側につくという動きも出て、室町幕府の三代将軍足利義満にも実際仕えている。その後、南朝に戻り、和平を望む後龜山天皇を擁立し、南北朝合一の立役者となることで歴史に名を遺している。

○楠正勝

正儀の嫡男。父親とは違い、やや好戦的であり、南北朝の統合以後も、室町幕府に抵抗をつづけたとされる。なお、この正勝が後半生は名を隠し、仏僧として生き続けたという伝説が存在する。



↑ JOF Blog 舞台裏レポートより

3月の例会は新型コロナウイルス対策の関係で、休会としました。この間、思わぬ講談や歌劇等の情報が入りましたので、通信にまとめました。

いろいろなジャンルで、正行顕彰が進むことを願っています。

(文責『四條啜楠正行の会』代表 扇谷昭)